



W杯で日
レゼンチン
む。追加招
中亮平(35)
会初のメン
リ。



東京都内の寺院の
住職を殺害した容
疑で、警視庁が男
女2人を逮捕。練
炭で一酸化炭素中
毒死させた疑い。

迫る | つながる | たのしむ | 気になる

世界の建物再建 復興の礎



迫る

コンサル社長 宮本英樹さん

体を揺るがせるような「ブーン」という不気味な警報が辺りに響いた。この時、ウクライナ・キーウ(キエフ)の夜空に飛来した無人攻撃機約10機。これらはウクライナ軍の迎撃ミサイルに全て撃ち落とされたが、容赦なく静寂な夜を切り裂く空襲によって戦場にいることを改めて思い知らされた。

ウクライナ自ら調査

米国のロサンゼルスを拠点とする災害復旧コンサルタント会社の社長、宮本英樹さん(60)は今年7月初旬ウクライナにいた。「警報が鳴る度に市民は騒然とし、連日の空襲で眠れませんが、攻撃による被害があり、建物の基礎などが根本的に

過去16年間で14カ所の被災地に赴いた。大地震では建物の基礎などが根本的に

「悲慘な現場はアツキに限ったことではありません。ロシア軍の攻撃で根へそぎ壊された街を見てきました。暴行された女性、高齢の父を理由なく殺された人がいたことを知りました。人の道から外れた破壊の様子を見る度に気持ちが響くようになってしまっています」

「復興の活動はハイチ政府の要方に回った。外国の技術者を雇うのではなく、ハイチ人の技術者を極力確保し、訓練した。現地に設立した支社「M1ハイチ」のトップには地元で尊敬される女性弁護士を立てた。現地での信頼を得たことによって作業も進んだ。

ウクライナ侵攻が2年2月に始まる「理由もなく人生を打ち砕かれた人々のために何かしなければ」と思っても立ってはいられなくなった。現地入りの機会を探っていた昨年9月、紛争を率いる。自身は東京工業大学の博士号を持ち、現在、米カリフォルニア州副都議全委員も務める。

「化人類学」の手法も生かした。異国での活動に役立つと考えたからだ。スタッフには従来の工学系に加え、国際開発、政策、保健衛生といった多彩な人材を雇い、会社を一変させた。



空襲で破壊されたウクライナの集合住宅を調査した宮本英樹さん。現場はスクラップがあるが、人々を驚かすことができない。ミヤマト・インタナショナルの機動隊から

「M1は現地技術者を重視する方針を続ける。それは戦地となったウクライナでも変わらない。支社を設立し、地元のエンジニア(技術者)建築家、建設マネージャーのスタッフ約100人を雇った。宮本さんは現場に立つ日々を過ごしている。

取材・文 大慶秀利 3面につづく

ミヤマト・インタナショナル

迫る | つながる | たのしむ | 気になる

復興に尽力する宮本英樹さん

← 一面からつづく

ヘルメットをかぶり、日焼けした顔で動き回る。それが米災害復旧コンサルタント会社「ミヤモト・インターナショナル」(MI)社長、宮本英樹さん(60)が現場で見せる姿だ。今は、国連機関の依頼で、ウクライナで破壊された建物の調査や修復を進めている。

アメフトで渡米

時計の針は高校2年の時までかのぼる。アメリカンフットボールをテレビ観戦しているうちに魅了され、競技したことはなかったが「米国に渡り、プロ選手になる」と決意した。身長は170センチと選手としては小柄だが、100メートルで11秒4を後に出すほど、足には自信があった。目指すはシヨット・アンド・フアースト(小柄だが、高速)のプレースタイル。長いパスを敵陣深くでレシーブするプレーヤーになれると信じ切った。

迫る

道が開ける機会は偶然やってきた。ある学会に参加すると自然災害のリスク管理で世界的に知られたピーター・ヤネフさんに出会った。顧問就任を懇願すると「私の言うことをしっかりと聞いてくれるなら」という条件で了承してくれた。ヤネフさんは国際的な人脈を宮本さんに紹介するとともに「地震が起きたら即座に現地を『偵察』し、状況を把握することだ」と助言した。



インタビューに答える宮本さん
東京都上野区ア7月、久保裕

プロなれず「プランB」

で活躍することだが、英語は落第点近く。両親に渡米の計画を打ち明けると強く反対されたが、意志は揺るがなかった。英語塾に通い詰め、1982年に選手育成で知られるカリフォルニア州の短大に入学できた。校内に日本人はいなかったが、あえて飛び込んだ。気候にも苦しんだ。乾燥地帯で夏の気温は40度を超える。プロテクターを着けながら、水と塩分タアレットをガンガン飲んだ」という猛練習を続けた。ジャンプしている時に体当たりされながらもボールを確保する練習をしてきた時に悲劇は起きた。足の靭帯が断裂。診断した医師から宣告された。「アメフトは諦めた方がいい」と

とてつもなく落ち込んだ。ただ、切り替えの早さが宮本さんの真骨頂なのかもしれない。1週間後には入生の「プランB」としていた「建築物の構造力学」の道に進むことを決めた。物理が好きで興味があった分野だ。短大から力

リフォルニア州立大チコ校に転籍した。学費を稼ぐため、森林消防士や金探掘、学生寮管理で働きながら学んだ。渡米から8年後ようやく卒業し、90年に就職したのは社員5〜6人の建築会社だった。エンジニア(技師)として働いたが、就職してから約5カ月後に解雇通告を受けた。社長からは「未熟だ」と理由を告げられたが、宮本さんは「今は駄目だけど、絶対よくなる。信じてください」と懇願し、謝意させた。

その頃、建築構造のセミナーに出席し「制震」や「免震」など最新の耐震技術に接し、む日本の効きが珍しく、た。制震は、伸縮やオイルで揺れを吸収する仕組みで、免震は、揺れを逃して建物への影響を軽減する。「これはすごい」と率直に感動し、すぐに専門家に電話を入れ指導を熱心に頼むと、丁寧に教えてくれた。

日本人だからと軽視されることはなかった。「建築技師」というのは保守的で、新しい技術をなかなか取り入れない傾向がありました。それでも若い私が制震などに関心を持っていたので、知識を分けようと考えたのかもしれない。また、こころごと打ち込む日本の効きが珍しく、た。制震は、伸縮やオイルで揺れを吸収する仕組みで、免震は、揺れを逃して建物への影響を軽減する。「これはすごい」と率直に感動し、すぐに専門家に電話を入れ指導を熱心に頼むと、丁寧に教えてくれた。



モロッコ地震で被災した山間部のタフェガフテに入った宮本英樹さん。「まず現場へ」を実践する=9月、ミヤモト・インターナショナルの提供動画から

国連機関が注目

06年からは、トルコで約2000棟もの学校や病院、文化遺産の耐震補強に力を尽くした。現地の技術者に制震や免震の技術を伝えることで国連機関などの注目を集めることになる。

この支援が、今年2月に発生したトルコ・シリア地震で生かされた。補強事業での技術者養成や法令改正などの影響を受けて免震が施された12の病院は無事だと分かったという。現在、米国とトルコ政府の協定に基づき、MIは中層ビルなど5000棟以上の耐震性チェックなどを担っている。

高いことが分かった。石綿は日本などでは使用できないが、ウクライナでは「破壊された学校の屋根にも石綿が含まれていた」と宮本さんは言う。MIは、戦時に対応した石綿対策マニュアルをウクライナ語で作成し、復興での活用を促している。特にリスクが高いと見ているのは、石綿を含む建物の大量のがれきた。「住民が多く住む場所に放置されている」と宮本さんは懸念する。焼却するなど処理を要すると石綿が

「即座に現地偵察」実践

宮本さんは「地震が起きたらすぐに現地偵察」の助言も実践し、10年のハイチ大地震などの発生直後に現地入りした。今年9月に発生したモロ

ッコ地震でも現場に駆け付け、高層ビルなど7000棟の修復を任されているが、現場で見えてくるものがある。避難者たちには疲労がたまり、自宅に戻る日を持ち望んでいる。学校や幼稚園の被害も深刻で、危険を恐れて生徒の多くが通わ

なくなった学校もあった。住民の安全優先の観点で情報を集めると、多数の建物に発がん物質のアスベスト(石綿)が含まれている危険性が

今回の取材は 大島秀利(専門編集委員) 1986年入社。福井支局、大阪社会部などを経て現職。原発、労働環境を担当。著書に「アスベスト」(岩波新書)。